

雜 報

會 員 動 靜

長良軍醫長兼分隊長對馬軍 醫長分隊長海軍軍醫大尉	三宅正一	岡山醫科大學教授 畑 文 平	眼科學研究ノ爲獨逸國へ在留ヲ命ス
免本職並兼職補知床軍醫長	(一月十五日)	岡山醫科大學助教授 北山加一郎	內科學研究ノ爲獨逸國へ在留ヲ命ス
岡山醫科大學教授 稻田 進		岡山醫科大學教授 上坂熊勝	
本俸五級俸下賜		岡山醫科大學教授 八木田九一郎	
岡山醫科大學教授 津田誠次		岡山醫科大學教授 敷波重次郎	
本俸七級俸下賜	(一月十八日)	岡山醫科大學教授 田村於菟	
		(各通) 岡山醫科大學教授 奧島貫一郎	
從七位 木村芳雄		岡山醫科大學教授 清次多榮	
從七位 有馬 玄		岡山醫科大學教授 田部 浩	
從七位 河田 豊章		岡山醫科大學教授 緒方益雄	
敘正七位	(十二月二十八日)	岡山醫科大學教授 遠藤中節	
		職務俸金千貳百圓下賜	
海軍軍醫中尉 西田實雄		(各通) 岡山醫科大學教授 生沼曹六	
海軍軍醫中尉 中村博郷		岡山醫科大學教授 鈴木 稔	
海軍軍醫中尉 廣川 濟		職務俸金千四百圓下賜	(一月二十六日)
海軍軍醫學校普通科學生被仰付	(一月二十日)	從六位 白 玖 壽 雄	
敘正六位	從六位 金子廉次郎	敘勳六等授瑞寶章	(二月二十二日)
敘從六位	正七位 山口龍契	岡山醫科大學教授 奧島貫一郎	
	(一月十五日)	陸敘高等官三等	
從四位勳四等 田中文男		岡山醫科大學教授 鈴木 稔	
敘勳三等授瑞寶章		岡山醫科大學教授 田部 浩	
正五位 安藤 晝一		岡山醫科大學教授 皆見省吾	
敘勳四等授瑞寶章	(一月二十二日)	陸敘高等官五等	(二月三日)

○山崎 磐君 は本月三日神戸解纜の宮崎丸にて歐洲留學の途に上られたり

○江 慶君 は先般より臺灣總督府高雄醫院に勤務せられたり

○辻 鹿子治君 は豫て岡山醫學大學稻田內科教室に勤務し居られしか今般九州帝醫學部金子內科教室

に轉勤せられたり

○宮本種美君 は岡山醫科大學耳鼻咽喉科教室に勤務し居られしか今般高知市中島町武田病院に轉勤せられたり

○瀬戸忠治郎君 は今般岡山醫科大學耳鼻咽喉科教室に勤務せられたり

○大熊弘三君 は今般福岡縣田川郡方城三菱方城炭坑醫局に轉勤せられたり

○田中屋清人君 曩日海軍を辭せられたる同君は今般三重縣北牟婁郡須賀村須賀利療院長に就任せられたり

○鳥越幹夫君 は先般新潟縣南魚沼郡土樽村松川鐵道省官舎に轉居せられたり

○小堀利一郎君 は本縣津山町に於て開業し居られしか昨年十月より京都帝大醫學部眼科教室に於て研究中なりしか今般本縣倉敷町に於て開業せられたり

○寺坂幸太郎君 は豫て岡山醫科大學耳鼻咽喉科教室に於て研究中なりしか今般宇和島市に於て開業せられたり

○勝野勝君 は今回大阪市湯川胃腸病院を辭し徳島縣名本郡國府町に於て開業せられたり

○浦上正直君 は昨年當市福武醫院を辭し岡山醫科大學耳鼻咽喉科教室に於て研究中なりしか今般福井縣遠敷郡雲濱村共立小濱病院に勤務せられたり

三谷時太郎君逝く 君は明治二十年岡山縣醫學學校を卒業し當市に於て開業し居られしか去月上旬遠逝せられたり洵に哀悼に堪へず謹みて茲に弔意を表す

河本清君逝く 君は昨年未頃より微恙ありて靜養中なりしか本月九日急に病革まり遂に永眠せられたり洵に痛惜に堪へず茲に謹みて弔意を表す

岸六郎君逝く 君は明治三十八年岡山醫學專門學校を卒業し廣島縣東城町に於て開業し居られしか先般病を以て永眠せられたりと痛惜に堪へず謹みて茲に弔意を表す

◎朝鮮羅南通信 本月十八日朝鮮羅南に於て岡山同窓會を開催し高原軍醫、田村軍醫、脇田軍醫、石井軍醫、長田軍醫正、松原軍醫正の諸君出席せられたる趣田中學長に通信ありたり

岡山皮膚科泌尿器科地方會第五回開催

來る三月五日(土曜)午後一時半より岡山醫大皮膚科教室に開催す。多數の出演參會を希望す。

◎本誌編輯上の變更に就て

編輯の都合に依り本誌より原著紹介欄を廢止す。希望の向きは本學圖書館宛申込まれるれば、「タイプライター」刷のものを一箇月四十錢にて譲り渡すこととす。

本誌は今年より印刷所研精堂の好意に依り「ポイント」活字に改正せり。本誌發展の一端なり。